

平成24年度 入船地区学校統合説明会議事要旨

- 1 開催日時** 平成24年7月28日(土) 午後12時30分～午後2時30分
- 2 開催場所** 浦安市立入船北小学校体育館
- 3 出席者** 長野教育総務部長、大野教育総務部参事、角田教育総務部次長、山高教育総務部次長(事務局)
佐藤学務課長、桂林学務課長補佐、大和学務課教職員係長、鈴木管理主事
船橋教育政策課長補佐、臼井指導課長補佐、岡本教育総務課財務係長
丸山教育施設課計画係長、矢ヶ部保健体育安全課体育安全係長

4 議 題

- ・学校統合計画の概要及び今後の進め方等の説明
- ・質疑応答、意見交換

5 資 料

(当日配布)

- ・入船地区学校統合計画について
- ・入船地区学校統合の今後の進め方について
- ・入船地区学校統合に関する検討課題
- ・入船地区小学校児童数の推移予測
- ・入船地区学校統合に関するQ&A

6 会議経過

- ・学校統合計画の概要及び今後の進め方等の説明については、以下の内容を事務局から報告を行った。
 - (1) 浦安市の学校の適正配置についての経緯
 - (2) 学校統合の概要及び今後の進め方
 - (3) 学校統合構想の例
- ・質疑応答、意見交換では以下のような質問及び意見があった。

参加者：美浜北幼稚園に子どもが通っている。統合した場合、必ず入船南小に行かなくてはならないのか。

事務局：現在、美浜北幼稚園に通っていて、入北小に入った後、統合の時に入南小の新しい小学校に行かなければならないのかというご質問でよろしいか。

元々学校に通学する区域が決まっていますが、これは指定しているが、入船地区にお住まいの方は、統合した時に新しい入船の小学校に通ってくださいという形になるが、そのほかの学校に行く場合は、これは特例の処置が考えられる。それは今後検討しなくてはならないが、これから検討して、みんなで一緒に行った方が安心ではないか、またそこで選択してもいいのではないかということも考えていかなければならない。とにかく子どもたちが不安のないように、新しい学校に通えるようにすることが一番大切と考えている。

参加者：統合ありき、それも中学校の学区域に統合するというので、入船北小は入船南小に統合されるというもう決定的な大前提があつての説明会なのか。

事務局：全市的に子どもが減っていく中で、それを適正な規模の学校にしていくことが必要だということ、必要性に基づいて、学校統合していくということをこれまで検討してきた。具体的に入船地区と美浜地区で学校統合をする。市長が平成23年度、3月の施政方針演説で「小規模化が顕著である入船美浜地区の小学校を対象に地域のつながりを重視した小学校の統合を進める。」というように述べている。そのことをお手紙でも震災の影響で1年延びたが、27年度4月の開校を目指すという話をさせてもらっている。そのように理解いただければと思う。

参加者：統合は決定しているのだからそれに基づいての意見を聞かせてくださいということなのか。おそらく入船北小の父兄の皆さんは、あのシンボルロードを越えていくことは通学時間が倍以上、遠くなる。さあどうなんですかと聞かれれば、今日出席の方は少ないが、ほとんどの方がたぶん統合しないでくれというだろう。皆さんの意見を聞きながらこれから色々検討していきたいということなのか。

事務局：平成27年度に統合を目指していきますということを決定しているということである。それについて御理解をいただきたいというのがこちらのお願いである。

参加者：この統廃合に関しては、もう絶対統廃合反対は通らないのか。もしくは、3年後というのが延びるのか延びないのか。

事務局：平成27年4月に新しい学校を開校したいという目標を持って進めているので、これをお願いしていく、御理解いただくということである。

3年後というのはどうなのかという話だが、やはり学校というのは小規模化するとなかなか増えていかず、逆に減っていく傾向がある。これをもっと延ばしてということになると、一層心配な状況となると考える。これからいろいろ検討課題があるので、検討課題の説明をしながら理解を得ていくしかないと感じている。

参加者：どのような形で検討するのか。

事務局：通学路の安全対策も含め、子どもたちが安心して楽しく通える学校づくりをこれから検討していきたいと思うので、その案はもちろんこちらの方で作っていく。それを懇談会等で説明し、また、説明会等も設けながら意見をうかがって修正すべきところは修正していきたいと思っている。

参加者：統廃合を入学してから知った。ちょうどたまたま1年延びたから6年の1年だけがひっかかる年になったが、もし、延びてなかったら今の4年生もひっかかる。それを説明もないまま3年後というのはすごく失礼な話だと思う。

これは質問ではなく意見だが、今の3年生にいたっては卒業させてほしい。誰も小中一貫校を望んでいない。3年後はやっぱり撤回してほしい。もう少し、話し合いの余地を持ってほしい。

参加者：統合する場合、入北小の先生は新しい小学校に異動するのか。もう一つ学童はどうなるのか。希望としては入北の学童を残してほしい。

事務局：先生方の異動についての質問だが、これは県全体の異動の方針があり、それに基づいて異動しなくてはならない。それを踏まえながら異動を行っていくが、もちろんこの学校から新しい学校へという先生も必要であると考え。学童についてはこれから検討したい。

参加者：入船東に住んでいる。美浜北小と縁があり、週に二回7年間毎週通っている。ある催しに来賓として招かれたとき3年ほど前、当時の校長先生と教育委員会の方が食事の時間に会話なさっているのが耳に入ってきた。「入北と入南の統合の話が今持ち上がっている、そんなことが検討されているのか」と聞いていた。今年から孫が入北小に入学し、にわか私事として痛烈な問題となってきた。いざこういう話になると何の事故もなく、はたして小さい1年生2年生が朝夕渡って通学で

きるか不安であるが、シンボルロードという象徴的な所でそんな事故が起こることのないよう十分にご配慮いただきたい。

参加者：もしも統合になったとき、2・3学級の学級編制ではこの例だと、小中9年間子どもの出入りなしに入船地区の生徒はこのメンバーで過ごすことになるのか。小中学校の中でまったく同じ学区の中で9年間過ごすのか。

事務局：入船地区の小学校は1中1小にしていくという案なので、そのまま1つの小学校から1つの中学校に通っていくことになる。それが基本となるが、別な中学校へということも可能である。先ほども少し話したが、一貫校ではないので小学校は小学校、中学校は中学校という運営をしていく。

1年生から9年生という考え方ではないということは何も付け加えさせていただく。

参加者：学校選択性の効果がなかったことを先程言っていたが、なぜなかったのかということを考えていただきたい。それは小学校は近いほうがいいからだというのが保護者の共通認識ではないか。学校が近いということは、どれだけ保護者にとって安心か、そういうことを考えてほしい。通学路の安全性というのはもう毎日のことなので、雨の日も嵐の日もある。そういう前提で考えていただきたい。自転車と歩く人を分けるくらいの、そのくらいの安全対策がなければ、あそこの安全性を、小学校の低学年を守るというのは非常に困難なことではないか。安全性を考えるならば、美浜北小への通学ができるという方向を、ぜひ検討していただきたい。必ず入船南小に行かなくてはならないというのではなくて、ここで選択をぜひ認めてほしい。安全ということが一番を考えてほしい。

事務局：安全対策というのはもちろん一番大切なことである。だから、子どもたちが安全安心して通うためにどうしたらよいかということ、これから検討していきたいと思う。皆さんにも御協力いただければと思っている。

選択を認めてほしいということに関して、その時に子どもたちが安心して新しい学校に行くということを考えることが一番であると思っているので、そのときにやはり選択があったほうがいいだろうということになれば、そうなることもあるが、そうではなくてみんなで一緒にということになれば、みんなで新しい学校にというお話をさせていただければと思う。これから検討していく。

参加者：私も入船北小学校と入船南小学校が合併するというのは聞いたが、入船南小学校は選択肢に入っていなかったの、やはり入船北小学校は近いし、いい学校だと思ってこちらに子どもを通わせるようにした。延期ということも考えられるのか、もしそういう意見が強ければ、視野に入れてプレハブではなくきちんとした教室に入れて、陸橋ができて、それで入船北小学校の子どもたちを受け入れるというようなことが手順ではないかと思うが、どうか。

事務局：27年開校という計画をつくったひとつの大きな理由として、入船中の校舎のほうにかなり空きが出る予定なのでプレハブを建ててということはない。

参加者：2年と6年の保護者である。まず、こういうようなやり方をしているから、役人はとか公務員はとか言われるのだ。まず決定をやっちゃうからみんな不安なのだ。道路が危ないのではないかとか、子どもは不安なのではないかとなってしまう。だから、今わかっている課題に対して大至急、こんな今後の検討事項ではなくて、こんなのは、さっさと解決策を提示したうえでこういう場を持たないと何の意味もない。

参加者：デメリットはこういうことがあるということ、正直に把握していることを考えていることを伝えてほしい。はっきりとメリットデメリットをきちんと対照的にわかるように作って示していただければと思う。

事務局：例えば検討事項の中のデメリットといえば、安全対策、通学路の安全対策というのは確かにデメリットだろうなということ認識しているし、懇談会の中でも話をいただいているが、名称一つをとっていろいろな問題があるだろうということはもちろんわかっている。そういうことでの検討事

項であげている。ただ、子どもが安心して楽しく通える学校をつくりたいという、そこをつくっていききたいという気持ちが一番である。それにはみなさんに協力していただきたいという意味で、いろいろなデメリットがあると思うが、それを超える魅力ある学校をつくりたい。そのために御理解御協力をいただきたい。

参加者：今3年生に子どもが通っている。今3年生だと6年だけどこか違う学校、まあ入船南小に通うという形になるのだが、6年だけ1年間だけ違う学校に行くくらいなら、2・3年延びたということもあったので、話し合いがつかなくなったり、ごねたりすれば1年くらい延期できるのではないかといいた淡い期待を抱いてしまっている部分がちょっとあった。そんなにきっちり3年間ではいかないのではないかというところも思ったりしていた。

参加者：全生徒の親が反対した場合にこの統廃合というのはなくなるのか。そもそも言い出した市長が来てないっていうのはちょっと納得できない。もしみなさんが反対した場合、この統廃合はなくなりましたという話にはなりえるのか。

事務局：今回の説明会について市長の調整がつかなかった。この統合について最初にも申し上げた通り、27年度の統合を目指していることである。それを理解いただいて、今日は説明会なので、こういう計画を進めるという説明をさせていただく必要があると思う。

参加者：その説明に関して親はノーと言っている。それについてはどう思われるのか。

事務局：御理解いただけるように努めるしかないと思っている。

参加者：参加者のこういう意見を聞いてどう捉えているのか、一人ずつ個人的な意見として、発言してもらえないか。

部長：これは市全体の実施計画の中で、やはりこの地区の10年、あるいは20年先を見通して考えていく中で、子どもたちの教育環境の整備、豊かな学びを保証するために、どういう形でいけばということで検討させていただいた。その結果、市の具体的な計画である実施計画に取り上げて示したところである。私どものほうは、説明を尽くして御理解を賜るところを推し進めていきたいと考えている。学校規模の適正化あるいは学校規模のあり方については、平成13年度から検討を重ねてきて、平成21年3月には基本方針を作成し、市のホームページ等に掲載してきたところである。

参加者：インターネットでの市長の演説だの、聞かない人はわからない。

部長：この内容については、平成23年3月10日付の文書で入船地区の小中学校、幼稚園、保育園の方も含めて、地域の皆様方にお知らせをしたところである。

参加者：そのときに統合は決定していなかったのか。

部長：これは統合ということで実施計画上の事業であるので、統合決定ということでお知らせの文書を出させていただいたということである。

参事：皆様方からいろいろな意見、その中で様々な不安あるいは皆様方の思いを聞かせていただいた。その不安あるいは思いを受け止めながら、今後の検討に生かしていきたいと思っているし、また今後の進め方にも生かしていきたい、このように思っているのでも、どうぞ御理解いただければと思っている。

次長：市としては、今後に向けてどのような形で統合ができるのか、よりよい方向性を見出して進めていければと考えている。

次長：教育委員会としても、この事業をどのようにして進めていけばよいのかということも、やはり子どもたちの安心安全というような前提に、そのためにどうすればよいのかもっと多くの方からご意見をいただきながらそして事務局と我々で検討を重ね、また結果も保護者の皆様にも説明しながらご理解を得ていきたい。

参加者：これから解決していく点があるということだが、安全な通学路ってどうやってかわっていくのか。

部長：確かに児童の交通安全は非常に大きい課題である。これについてはやはり、通学路の安全についてどのような形どのようなことが安全を確保するためにできるのかということ、これから十分検討していきたいと、前から課題としてあげていたが、予算の面等あるので、先ほど陸橋というお話もあったが、そういうことが可能なかどうか、あるいはそれ以外の安全確保策はどういうことなのかということ、これを十分検討しながら、3年後の統合というものを考えていきたい。

参加者：子どもはみんな楽しくここ学校に来ている。ここで楽しく生活している。

事務局：今の子どもたちの小規模校でのメリットという面を否定しているものではないが、これから先のことを考えて統合する必要があると判断した。また、統合を進めるに当たって、全国の学校にかかわっている、統合を経験されている学識経験者の方にもアドバイスをいただいている。中学校の先生が教えると非常に効果的であるという評価があるとうかがっている。

参加者：わざわざそちらがわに中学校までつくってそうする必要もないだろうと思うし、今、現代では高洲地区の子は入船の中学校に通えて、中学生だから体力もあって十分なこともあり、そこに通うことができる。いま、この入船地区でわざわざ入船中学校、入船小学校とって一貫校をめざすような教育の必要があるのかと思う。今、うちの上の子が心配しているのはここにタイムカプセルがある。それをどうしようかって、その問題を考えてほしい、保護意見も大切だが、卒業した子どもたちの意見も取り入れてほしい。

参加者：今、音楽の授業のことだが、音楽についてはこちらの小学校では1年生から専科の先生がついて音楽室をつかうという、それが小規模校のメリットであると、大きな学校では専科の先生は高学年から、音楽室も交代といわれている。

また、交差点のことだが、私も陸橋にしてほしい。陸橋さえできれば入船南に行ってもいいのではないかと思っていた。それで警察に聞きに行ったが、陸橋は考えられないって言われた。そのときちょうどねぶたが通るときだったので、ねぶたが通るからかって聞いたら、そういうのもあるけど、全国的に陸橋というのはあんまり考えていないって。陸橋はだめで、ではスクランブルはどうかって言ったら、スクランブルは近くに大きな交差点、線路の下の所にある交差点、あそこにも大きな交差点があるので、スクランブルはその関係があるのでたぶん、無理だろう。信号の調節はきかない。では信号の時間を長くするのはどうかと聞いたら、信号の時間を長くするというのもほかの信号との関係があるのでそんな簡単にはいかないって言われた。通学路の安全を本気で考えていただきたい。安全についてまず考えていただきたい。

参加者：見方を変えると、そういった市の広報、入船北小学校がなくなるよという周知が、入船北小学校の生徒をどんどん減らしていったために人数が減ってしまったのではないか。新しい1年生を入船北小学校に入るように勧めていただけるのか、それとも、もうこの学校はなくなってしまうからどこでもいいよというお考えなのか、その点を伺いたい。

事務局：入船北小学校区の子どもたちは入船北小学校に入ってほしいと考えている。入船北小学校から新しい学校に移るといことよさを、説明していきたい。

参加者：入船北小学校の人数を減らそうとしているのでは。

事務局：21年度に入船南小学校のほうは適正規模を維持していくことになったということで、全市からの選択制をなくした。それから、たしかにこれ以外にも通っているお子さんは何人かいると思うが、それは特別な事情があってということである。ここの学校が小さいからということは一切ないし、勧めていることもない。

参加者：保護者の話を聞いたうえで統合についてどうするかという考えは、初めからなかったというふう

に理解してよろしいのか。

事務局：保護者の皆様の意見を聞かないなんていうふうを受け取っていらっしゃるとすれば、申し訳ない

など思っている。そんなつもりはない。これまで平成13年度から全市的なこととしていろいろな立場の代表の方を委員会として招いて、話や意見を伺ってきた経緯がある。たとえば学校選択制という方針に関する意見等を伺いながら進めてきた。

3月10日にお知らせをした後大震災があり、計画自体どうしようかということから始まった部分もあるので、全市的なことを考えて、震災があっても進めようという結論を経て、進めてきた経緯がある。

参加者：まずシンボルロードについてどんなアイデアがあるのか、具体的にそれが解決できるのか。

事務局：これから検討していくことであり、こういうことがアイデアとしてあるということを決まることではないので、なかなか申し上げにくいと思う。

参加者：私は安全に通わせたくてそこに家を買った。こんないい場所はない。ここから道路もなく、私はそこに家を買った。シンボルロードを渡っていく小学生がいるっていうのではなく、私はそれをさせたくないから安全に通える家を買った。築26年の家を安全のために買った。猫実の方は横断させているというのは、それはご夫婦が横断させてもいいという考えでそこに住まれているのであろう。

参加者：各地で集団登校している子どもたちの列に、吸い込まれるようにして車がつっこんできた。入船北小学校に通っていた子どもたちが違う小学校に行ったときに、車が突っ込んで来たらあなたたちが責任をとるのか。市長が責任をとるのか。

参加者：とれる人は一人もいない、誰もいない。

参加者：それが行政のやり方だ。父兄の質問に対して答えられる方が来てほしい。

参加者：何学級以下が不適正であり、何学級以上が適正だという基準が、なぜ何学級以下が不適正なのかわからない。理解できない。

事務局：学級の規模がどれくらいがいいのかという部分は、根本には法令があって、12学級から18学級というのが標準だというのが決まっている。通学路については、いつから検討するっていうスケジューリングはあるが、今のお話を伺ってやはり、早めにそれは検討しなければいけないということ…

参加者：検討のスタートの時期じゃなくて、いつになるのかって…

事務局：それを早急に、できるだけ早めにやっつけていかなければいけないなっていうことは…

参加者：ここにいる人はその日にちすら決められないのか。

事務局：だから計画をみんなで決めてきたわけであって…

参加者：何のためにお給料出ているのか。あなたたちは何しに来てるのか。

部長：具体的な策をいついつまでにという質問だが、我々これから早急に検討して、ほとんどの対応策がある程度の費用、予算がかかることになる。その中でできる最善の対応策ということを考えていくと、やはり予算について、市議会に審議いただいて同意をいただくという手続きが生じてくるので、いつまでに具体的な策についてできるという話ができないというところがある。

次回、9月に開催を予定しているが、本日もいただいたご意見あるいはご質問等に回答できることについては、その際に示していきたいというふうに考えている。

参加者：これだけの意見があって、この学校はいい学校だ、交通のことが心配だ、これだけの親の気持ちを聞いていただいたから、平成27年度の合併をそこを目標にするのではなく、もし合併するんであればよりよいものを目指して、平成27年度というのは白紙に戻して検討していただけないか。

事務局：今日、いろいろな意見をいただいたので、それについては教育委員会それから市長を含めて伝えていく。この場で見直しますということは私の立場では言えない。9月の説明会には責任のある者が出られるように調整してまいりたいと思う。

参加者：市長と教育長を連れてきてほしい。話にならない。

事務局：それも含めて調整してまいりたいと思う。